



脊古佐登史議員

鳥獣害対策の推進を

脊古議員は、農作物の鳥獣害について質問。産業建設課は、アライグマ

脊古議員は、農作物の鳥獣害について質問。産業建設課は、アライグマなどを捕獲するおりの貸し出し、有害駆除の回数を増やすことなどの要望が町民から寄せられたことを明らかにした。今後はおりを購入し、設置に必要な狩猟免許を町職員が取得する、猟友会と駆

太地町9月議会

3議員が一般質問

除の回数増加を協議する、などと答弁した。有刺鉄線の設置に対する補助について同課は、鳥獣害に有効という明確な事例が確認されていないこと、危険性があることを挙げ、今後の検討が必要とした。

次に、家庭から出る廃油の回収について質問。住民福祉課は、凝固させた状態や紙にしみ込ませてごみとして回収しているほか、町清掃センターへの持ち込みも受け付けていると答弁。脊古議員は「処理が面倒でそのまま流している人もいるのではないか。磯焼けの原因にもなる」と指摘し、一カ所で回収する仕組み

を作るよう求めた。また、漁場作りのための投石事業について質問。産業建設課は、潜水調査の結果、テングサなどの海藻類の増加が確認されたこと述べ、三軒一高町長も「成果が上がっている」と受け止めているとの認識を示した。

太地町議会（三原勝利議長、10人）の9月定例会は17日、閉会した。一般会計補正予算案や昨年度の各会計決算認定など全議案を原案通り可決、承認。一般質問は最終日に行われ、脊古佐登史、榎本幹男、漁野尚登の3議員が町政の課題について質問した。



大学教授にリハビリ学ぶ

パーキンソン病のつどい

新宮保健所

新宮保健所主催のパーキンソン病患者と家族のつどいが17日、新宮市の東牟婁振興局であり、関係者ら約50人が、大学教授2人から家庭でできるリハビリを学び、生活の悩み解消に向けて意見交換をした。

同保健所では、患者や家族が交流のすそ野を広げて有益な情報が得やすくなるよう、定期的に同つどいを実施している。

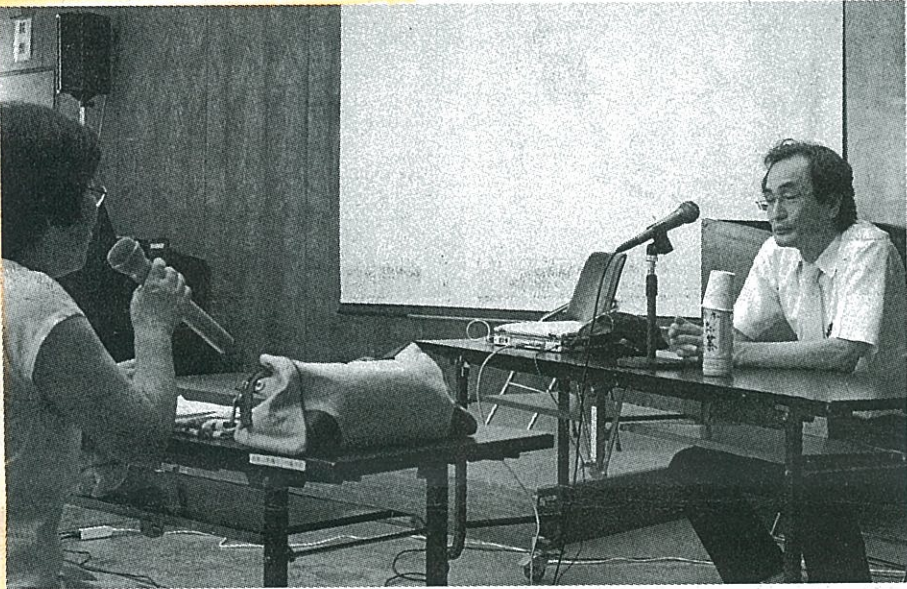
家庭でできるパーキンソン病のリハビリを紹介する鈴木俊明教授（17日、新宮市の東牟婁振興局）

今回は関西医療大学から鈴木俊明教授と吉田宗平教授が招かれ、前半は鈴木教授が「家庭でできるパーキンソン病のリハビリ」をテーマに講演し、後半は吉田教授が参加者らの抱えている生活の悩みに応じた。

鈴木教授は患者の悩み

の1つ、発病と同時に体が動きにくくなる理由を紹介し、その上でのようなりハビリが効果的かを説明。運動感覚と動作の調和を鍛えることで体は動かしやすくなるとし、正しい感覚を身につけるための運動療法の数々を実践を交えて指導した。

「さっそく効果を実感した参加者からは「あんなのいつかおりにやったらよかったわ」と好評の声があがったが、これを受けて吉田教授は「これを訓練と思わず、生活習慣としてほしい。状況がよくなっても（再発防止のため）ずっと続けてほしい。よくなったからといってやめてしまうと、間違いなく悪化する」と継続を呼び掛けた。



患者や家族の悩みを受ける吉田宗平教授（右）

集中豪雨の罹 営業店舗対象

新宮市は15日夜の集中豪雨で被害を受けた営業店舗を対象に罹災（りさい）証明書の臨時相談窓

新宮市

「伝え合うこと」を学ぼう 蓬萊小4年生が点字学習

新宮市立蓬萊小学校（中平佳孝校長）で17日、

大地震発生を想定して

熊野地保育所で引き渡し訓練

新宮市